

ブラチナ大賞、都内で最終審査

# 優秀賞に北都銀選出

## バイオマス事業支援評価

環境問題や少子高齢化など

の課題解決に向けた取り組みを表彰する「第5回ブラチナ大賞」の最終審査発表会が26日、東京都千代田区のイノホールで開かれた。本県からは、北都銀行が県内企業の本質バイオマス発電事業をサポートした事例について発表。審査の結果、大賞に次ぐ優秀賞に選ばれ、斉藤永吉頭取が賞状を受け取った。

全国の自治体や企業のトップなどをつくる連携組織「ブラチナ構想ネットワーク」(会長＝小宮山宏・三菱総合研究所理事長)の主催。全国から43件の応募があり、書類審査を経て10件が最終審査に進んだ。

発表会では斉藤頭取が登壇し、ユニテッドリニューアブルエナジー(秋田市)が昨年7月に本格採掘した木質バイオマス発電事業について説明。県内外の九つの金融機関や企業で協調融資し、事業による収益のみを返済原資に充てる「プロジェクトファイナンス」を取り入れたことを紹介した。

同行は新生銀行(東京)と幹事行を務め、木質チップの安定調達に向けて原木生産者やチップ業者にも利益が出るよう調整役を担ったほか、事業計画の策定などをサポートしたという。

斉藤頭取は「地域の課題に真正面から向き合って挑戦することが地域金融機関の役割であり、責任。地元起業家のチャレンジを地域金融機関がサポートした。バイオマス発電、風力発電によって新しい産業を創出し、世界に誇れるエネルギー県となるよう挑戦を続ける」と語った。

(大原進太郎)



優秀賞の賞状を受け取る斉藤頭取(中央)